

校訓	真 善 美	令和7年度 学校だより	発行日	令和7年9月10日
教育目標	自ら考え、協働し、共に未来を 創造する生徒の育成 ～認め合う心、確かな学力、健やかな心身を育てる～	「荒中だより」 9月 長月 第11号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 二宮 啓二

全国・学力学習状況調査の結果について①

4月15日・17日に3年生を対象に実施された『全国学力・学習状況調査』の結果が返却されてきましたので、報告いたします。今年度は、国語・数学に加え、理科が実施されました。伊丹市の結果については、伊丹市教育委員会のHPで公表されています。ここでは、本校の結果等をお知らせいたします。なお、この調査で測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一つの側面です。

※本校と全国の平均正答率の差が「およそ」となっているのは、全国平均は少数第1位まで発表されているのに対して、本校の値などは整数で発表されていることによります。



1 学力に関する調査（国語・数学・理科）

調査では、後の学年の学習内容のため、身につけておくべき内容や実生活において常に活用できることが望ましい知識・技能、また、知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などが一体的に問われました。

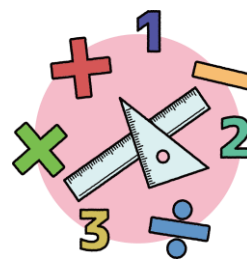
（1）国語

本校の平均正答率は全国平均と同等でした。「思考・判断・表現」のうち「読むこと」について全国平均を上回っています。その他の分野についても全国平均とほぼ同等でした。特に、記述問題における無解答率は全国値を大幅に下回っており（下回るほどよい値）、粘り強く問題に取り組む姿勢が身についていることがわかりました。しかし、資料等を用い、根拠を明確にして考える記述式の問題の正答率が低い結果となりました。

現在、各学年で取り組んでいる読解力向上を目的とした短文作成の継続や、単元ごとの作文課題を中心に、生徒の「書く」力の向上を図ってまいります。

(2) 数学

本校の平均正答率は全国平均をおよそ2ポイント下回りました。数と式では、基礎的知識の定着に課題が見られました。数学用語を理解し、説明の中で活用する力が求められます。記述問題の無解答率は、全国の値より良い値であったものの、正答率については低い傾向がありました。図形や関数の領域における正答率は全国平均と同等あるいは上回る結果となりました。



今後、授業や課題を通して基礎的知識の定着を図るとともに、数学的な見方・考え方を働かせた論理的思考や数学自体の実用性を、学習に結びつけられるよう授業改善を行い、「数学が好き」「得意」な生徒を増やしていきたいと考えています。

(3) 理科【C B T方式（タブレットを用いた試験方式）での実施】

理科は、新たな方法として、動画やアニメーションを見て回答したり、図を実際に移動させて回答したりするなど、タブレットを用いて調査をしました。公開されている共通問題に加え、実施日や生徒ごとに異なる問題も出題されました。全体のスコアは全国平均値をやや下回る結果となりました。公開問題の本校の結果から、特に元素記号や化学変化に関する問題など「粒子」を柱とする領域について、全国平均を上回る結果となりました。また、知識を活用して解答する記述問題も全国平均を上回る結果となりました。

今後は、複数の情報や知識を関連付けた課題に対し、科学的なものの見方や考え方を活用して解決する力をつける必要があります。そのために、日常生活や学習の中の疑問や問いに対し、様々な角度から事象をとらえ、分析したことについて、自分の言葉で表現できるよう授業改善を図ってまいります。



今回の結果も含め、夏休み中に研修会を実施しました。荒中の先生方で荒中生が目指す15歳の姿を考え、その実現のためにどんな授業や教育活動を行っていくかについて、熱心に議論しました。今後の授業改善に活かしていきたいと考えています。

※ 学習状況に関する調査（生徒質問紙調査）については、次号で報告します。